

政所茶を支える後継者の育成

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

奥永源寺地域は、幻の銘茶として知られる「政所茶」の産地ですが、生産者の減少や高齢化により、現在では栽培面積約2.5ha、生産量2.5t/年に留まっています。次世代の茶農家は60歳代以下が中心となっているものの、栽培・製茶技術が伝承されていません。特に、産地全体の加工を担う製茶技術者の後継者がおらず、問題となっていました。

そこで、1,2年前から製茶に取り組み始めた若手2名の製茶技術者候補の育成を支援するとともに、次世代茶農家の栽培技術の向上に取り組むこととしました。

【普及活動の内容】

(1) 製茶技術者の育成

製茶中は、茶葉の変化を五感で判断し適切に工程管理を行うことが必要です。そこで、茶業指導所と連携し政所地域の一番茶前に製茶研修会を開催することで、事前に製茶工程における知識習得と製茶感覚の醸成を図りました。また、製茶技術者の従事中は製茶トラブルに対する対処マニュアルを配布するとともに、適正な製茶工程管理ができるよう現地で支援しました。



写真1 現場での製茶指導の様子

(2) 栽培技術支援

政所地域の栽培技術を整理し、地域の栽培暦を作成しました。生産者と検討を重ね、必要な情報と残すべき伝統技術の記載により生産者の意識向上を図りました。また、研修会では栽培暦を活用しながら、次年度の一番茶生産に向けた施肥、整枝における重要なポイントについて指導しました。

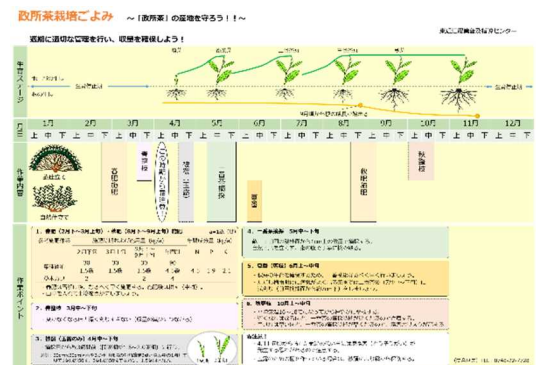


図1 作成した栽培暦

【普及活動の成果】

地域の生産者からは「今年のお茶は出来が良い」との意見があり、後継者となる2名の製茶技術者の自信につながり、製茶技術の向上が見られました。また、栽培暦の作成と研修会により地域の栽培技術が整理され、生産者の意識向上につながりました。

◎対象者の意見

事前の研修会で製茶感覚を思い出せたので自信をもって本番に臨めた。また、製茶の資料や栽培暦が非常に役に立った。(Y氏/オペレーター)